

275 中央大学辞達学会

〔『法学新報』第21巻1(238)号 明治44年1月1日〕

○中央大学辞達学会 同会は客臘十一日午後一時より副会長花井博士司会の下に其納会を兼ね各大学聯合演説会を大講堂に開きしか先づ委員渡辺英三氏は同会の沿革並に現況を単簡に説明して本会開会の趣旨を陳へられ次に來賓茅原華山氏は旅中所見なる題にて「欧州と雖も壯麗の家、偉觀の館は之れを都會に見るのみ田舎の実状は吾人をして殆んど生活に堪えさらしむるも

のあり」と前置して或はアイルランド物質的進歩の幼稚なるを憐み或はアイスランドの食物の不自由を嘆し或は其八月の冬景色を叙し或は露国人の親切を欣ひ其他デンマークに入りスエーデンに渡りクリスチヤニヤに至る等氏か五ヶ年四ヶ月間に互る滞欧中に於ける諸国の田舎旅行の実状を説述せられたり而して氏は其旅行の孰れも寒氣凜然たる雪の日なりしを説明して遊覧は駘蕩の好期を選ふべく学究は寒暑の候の可なるを述へ更に国情を知らむと欲せは親しく民情風俗を視察するより寧ろ直接官衙に聞き訊すの便宜なるを論し氏又自から実験したる事実を語られたり蓋氏か其朗朗たる声音と快活なる口調は能く聴衆をして興味を以て傾聴せしめられたり次に「嚴冬將に至らんとす」の題にて慶應義塾杉山巖氏は「知らすやピーコンスピールは青年は総ての大事を成すものなりと絶叫したるを凡そ拔山の偉業蓋世の壮挙は峻烈なる青年の意気に依つて成るなり之れを歴史に洞照するも益々以て其真理なるを裏書するのみ然るに現代青年の氣風漸く情弱となり靡然として軟化せむとす若し一国の中堅たる青年の氣風にして如斯むはその国の前途や真に憂ふべきなり」論茲に至れば壇上の人壇下の人共に慷慨憤拱会場中亦寂として声なし氏は一転して論すらく「軟骨の輩或は弁して之れ時代の推移となさむ然れとも偉人は時代を導き万人を風靡するもの何すれそ我出てすんは蒼生を如何せむの氣慨なき嗚呼世は將に嚴冬に到らんとするに当り我国青年の氣風亦戰慄すへきものあらんとす起て諸君起つて青年の特性を發揮し以て時流の惑溺者を救へ」と態度真摯語氣亦痛烈恰も秋霜を踏むの概

ありき次に「社会の階級と吾人の覚悟」と題し中央大学佐藤八次郎氏は「社会に於ける千差万別の階級は是れ決して自然的現象にあらず吾人は其努力に依つて其地位を昇進することを得るものなり而して吾人の社会的地位の亢進は即ち社会の進歩なるか故に吾人は其社会に対し宜しく貢献するの覚悟なかるへからす」とて鷹揚なる態度を以て論せられたり次に「公民教育の必要」と題し早稲田大学桜井兵五郎氏は「活目して我国憲政の現況を視よ帝国議會はまた以て民意を代表するに足らず藩閥政治は今尚展開するを得ざるにあらずや如斯は徒らに立憲政体の形ちのみありて其実なきもの吾人の憤慨に堪えざる所なり惟ふに憲法政治なるものは国民一般に政治的思想の普及し自治体の発達ありて而して後始めて其有終の美を収むべきなり然るに我自治法の發布は憲法の制定に先つこと僅かに一年自治体の素養豈其短期の能くする所ならむや今日の悔ある寧ろ当然のみ於此乎吾人は公民教育の必要なるは焦眉の急なるを思はずんはあらず遮莫近時地方青年団の勃興を見る其数二万に垂んとす若し夫れ一致団結憤然として起たは憲政有終の美を収むる難きに非るなり予茲に見るあり即ち雜誌青年団を發刊して政治思想の普及を図り以て質実なる立憲国の実現を見んことを希ふ」動かさる泰山の態侵すへからざる嚴然の風ありき次に「再不可購」東京高等工業坂本剡氏は宇宙の無限大に比較せば吾人の体軀は微小なり而かも其小なる人の力能く拔山の偉業を成し蓋世の壯業を企図するにあらずや誰か云ふ人世意義なしと

氏は一転して曰く「先輩は吾人の理想の卑しきを嘲り其希望の

小なるを笑ふ然れども是れ果して黄金万能に依て教育されたる吾人の罪ならん耶と時代思想を諷刺し更に「青年は人生の春なり功名にて生き希望に依て存す而も紅顔子徒らに老ひ易くして学成り難し吾人は卑むへき拜金の為めに齷齪たるへきにあらす宜しく其氣宇を大にし以て意義ある人生をして全からしむへし今日学はすして来る日ありと謂ふ勿れ勤めむ哉」其姿勢や整正、其抑揚や度に適ひ滔滔と論せられたり次に「望蜀論」と題し日本大学吉田実氏「人生の意義は畢竟既得隨復望蜀にあり」と喝破し「人生れて向上的精神を有す蓋是れあるか故に世は發達し文明は倍々進歩するなり」とて滔滔数千言精力主義の為に清貧論を痛駁し更に或は事業或は政治其他諸種の方面に現はれたる望蜀主義の効果を証明して「人は定住に固著すへきにあらすこたつには別にこたつの寒さあり何ぞ去て凜然たる寒氣に向はざる」とて人生牛歩の遅きより寧ろ駿足の迅かなるに如かざるを暗に諷刺せられたり次に「平和と人道」と題し明治大学三笠良人氏「既往に於ける世界史は戦争史なり然れども今や各国は漸次経済的に接近せり今後に於ける世界は永遠に平和ならむとす」と予断し「戦争は畜に幾万の勇士を失ふのみならず軍備の拡張は勢ひ過税の誅求となり為めに物価を騰貴せしむるに至るの弊あり」とて正義人道の為め仲裁裁判の發達と利用の必要なるを論し一転して「然れども世界は今や事実にて武装の平和なり見よ各国人民は孰れも其過税に苦しむにあらすや彼の共產主義者の輩出の如き生活難より来る犯罪の増加したる如き皆是れ其間の消息を明にするものなり故に各国は宜しく一定の条

件を留保して其軍備を縮少すへきなり」と論断し「如斯むは軍人は生産に従事し軍費は他に転用し租税は為めに輕減することを得其及ふに至りてや人は人道を思ひ礼節を知り其達するに至りてや世界永遠の平和を保存することを得へし」と其流麗なる弁を以て平和主義の為め理由ある抱負を陳へられたり次に「雅号論」と題し東京帝国大学太田庄吉氏は凡そ事物虚構にして名の実に伴はざるは是れ雅号なり」とて或は官僚政治を諷刺し或は立憲政党を揣摩し或は社会主義を唱ふる者忌む者共に之れを罵倒して「然れども理想的眞の雅号の字義は彼の富士山の名に依つて尽く蓋其三国に跨る泰然の雄姿其雲上に巍然たる崇高の靈氣は実に我國民情を表彰するものにして吾人は須らく發展的ならざるへからず」と為し一転して米国の「モンロー」主義は實は帝国主義にしてペルリ来訪当時既に東洋に対する野心ありたるを暴露し其矛盾せる干涉に憤激して日米戦争に論及し「米國か其憲法を改正せざる以上財政的見地よりするも吾人は敢て悲觀すへきにあらす今や虎視耽耽たるの時悠悠実なき雅号に安すへからす國民は須らく眞の雅号の意義に發展すへし」と濃厚なる口調を以て説述せられたり次に「所感」と題し法政大学福岡良郎氏は出演弁士後藤國彦氏に代りて登壇したる理由を一言して「現代の社会は経済的見地よりせば尚改革の地地あり之れを目的とせる眞の社会主義は之れを歓迎す然るに茲に至愚の徒あり肯て社会主義の名を仮つて暴事を企つ為めに世人をして社会主義と無政府主義とを混視せしめ共に葬らしめんとす学界の為め眞に慨嘆すへきなり蓋今や生存競争は愈々猛烈を加へ所

謂經濟上の弱者は倍々多からんとす識者以て如何とす」と其潑  
測たる弁を以て痛論せられたり次に「人口増加と犯罪の増加」  
なる題にて副会長法学博士花井卓蔵氏は其論理整然たる雄弁を  
以て滔滔一時間に亘り得意の刑事政策を講演せらる其詳細は載  
せて本紙論説欄にあり重複を避けて茲に其摘録を略す就て参看  
せらるへし時正に六時なれば遺憾ながら中央大学弁士山王丸豊  
治氏の登壇を見るに至らずして博士は茲に閉会を告げられたり  
当日は聴衆五百余名に達して何れも最終まで熱心に傾聴し近來  
の盛会なりし（幹事報）